

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

共通彫塑研究室

戸田裕介教授

『水平思考の世界： 固定観念がはずれる創造的思考法』

エドワード・デボノ 著，

藤島みさ子 訳，きこ書房，2015



筆者デ・ボノは"はじめに"で「『水平思考』は私が考案した言葉だ。」と言い切る。彼が本書で提唱したいのは論理的思考（垂直思考）の限界を軽々と乗り越える（異なるベクトルへ一気に思考の流れを変える）固定観念をはずすための創造的方向転換とそのプロセスへの開眼である。"発明や新しいアイデアを得るために必要不可欠な「水平思考」"は「垂直思考」に対する命名であろうが、本書を読む限り、水平と言うよりも垂直以外の全ての方向からの縦横無尽袈裟懸け斜め切りの滅多切りではないだろうか。

彼の理論についてはそもそも論理的思考への理解不足が指摘されることもあり批判的評価も数多い。私にも、本書6章辺りから最終10章までは理解し難い話も出てくる。斜め読み袈裟懸け読みでフムフムと読めば楽しい本だろう。

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

共通彫塑研究室

戸田裕介教授

『意識と本質：

精神的東洋を求めて（岩波文庫）』

井筒俊彦 著，岩波書店，1991



東洋思想について広大な知識と全方位的かつ豊富な経験に基づいて書かれた本書で言及される精神文化の範囲は、日本・インド・中国・イスラーム etc... しかもこれらは地理的な話しではない。東洋哲学も西洋哲学も宗教者の「コトバ」も詩人の「コトバ」も歴史の同時性を飛び越えた精神に昇華するために引用され言及されている。本書には初見の単語や概念が数多く登場するので一読で理解するのは私には不可能だった（今も）。それでも力づくで（「よく分からないことは判らなくても仕方ない」なかば諦めの気持ちを小脇に抱えながら）読み進めるうちに、この本に出会うまで考えたことも無かったことや、物事をそんな視点から見られるのかと驚かされる瞬間に出会えるだろう。哲学書を全く読まないひとにはおすすめできない。制作のめ切に追われながら通読するのは不可能だろう。けれどいつか多くの人に手に取って1章でも読んでみて欲しい1冊である。

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

共通彫塑研究室

戸田裕介教授

『視覚新論』

G. バークリ 著ほか，勁草書房，1990



7-18 世紀アイルランドの聖職者で哲学者ジョージ・バークリの著作『視覚新論（視覚の新しい理論の試み）』（1709 年初版）を中心に "『アルシフロン』への匿名者からの批判の手紙" と、" その手紙へのバークリーの反論 " として書かれた『視覚論弁明』などが収められている。「存在することとは知覚されることである」という明快な論理で展開される哲学の古典を、訳者二人の解説Ⅰ・Ⅱに認知心理学者：鳥居修晃の解説Ⅲも加えて 1 冊にまとめられているのが本書である。私は編著『ぺらぺらの彫刻』（2021 年 武蔵野美術大学出版局）の中の一節で触れた「見ること」にかかわる一部の引用と訳注の確認を本書を頼りに行った。ちなみに本書のブックデザインは視覚伝達デザイン学科の寺山祐策先生である。

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

共通彫塑研究室

戸田裕介教授

『アルジャーノンに花束を 改訂版』

ダニエル・キイス 著，小尾芙佐 訳，早川書房，1989

当館所蔵なし 津田塾大学にあり

TAC(多摩アカデミックコンソーシアム)の図書館から利用できますので、
ご希望の方は1階カウンターへお越しください。

津田塾大学所蔵



1992-3 年頃、当時共通彫塑研究室で教務補助員を務めていた Y 女史に勧められて読んだ。

タイトルのアルジャーノンはラット。白ネズミである。この物語は少しもネタバレしないよう、みなさんにストーリーについて一切何も語らないままでおすすめしたい。

恋愛や友情や悲哀など様々な出来事の繊細な描写に読書中何度も感情を揺さぶられること間違いない。

本書の発表から約 60 年の時を経た今の世の中でこの物語は現実味をおびてきているように思う。本書のテーマを取り上げて議論してみても良いのではないだろうか。